

教科目名 経済学概説 (Economics)

学科名・学年 : 4年全

単位数など : 選択 2単位 (通年1コマ, 学習保証時間45時間)

担当教官 : 鳥谷一生

授業の概要		
基本的に講義形式で授業を進めるが、ビデオやプレゼンテーション・ソフトも活用しながら、できるだけ平易に説明していく。		
到達目標		大分高専目標 (A1), J A B E E 目標 (a)
<p>(前期の目標) 今日の日本経済は、90年代から続く金融不安と天文学的数字にまで膨れ上がった財政赤字によって、問題山積の状況である。本講義では、金融と財政とを軸に今日の日本経済について解説し、経済学の基礎を習得していくことを目的としている。</p> <p>(後期の目標) グローバリゼーションの波は我々の日常生活にまで押し寄せ、外国為替相場や海外の金融経済指標にふれない日はない。また、世界経済の統合化は急速に進み、特に中国を含む近隣アジア諸国との経済的結び付きは強まるばかりである。本講義では、国際経済学の基礎を学ぶと共に、現代世界経済を読み解くための基礎知識習得を目的としている。</p>		
回	授 業 項 目	内 容
1	「円高・円安」と外国為替市場	金融の仕組みの基礎理解を図る。 金融政策と金融市場がどのように結び付き、そして歴史的にどのように展開してきたのかを概観する。 現実の諸問題を考察する。
2	GDPの定義と意味	
3	金融制度と金融システム	
4	日銀の金融政策	
5	インフレ・デフレと日銀の金融政策	
6	株式会社とは何か	
7	証券の基本と証券市場	
8	金融自由化	
9	85年「プラザ合意」	
10	バブル崩壊と金融危機	
11	公共事業と景気対策	
12	借金大国日本の現状	
13	少子高齢化と公的年金制度	
14	前期末試験	
15	試験問題解説	
16	国際収支とマクロ経済	国際経済の仕組みの基礎理解を図る。 世界経済がどのようなルールの下に運営されているのかを概観する。 現実の諸問題を考察する。
17	国際収支と外国為替市場	
18	債権大国日本の現状と外貨準備	
19	外国為替市場と日銀の金融政策	
20	グローバル・マネーと為替相場制度	
21	貿易の理論と現実	
22	多国籍企業と世界経済	
23	自由貿易のルール	
24	GATT・WTO	
25	IMFの成立と歴史	
26	南北問題	
27	ヨーロッパの通貨統合	
28	アジア通貨危機	
29	学年末試験	
30	試験問題解説	
履修上の注意	予習、復習に励むこと。	
教科書	細野真宏著『経済のニュースがよくわかる本 日本経済編』小学館 2003年。 小泉祐一郎『世界経済のニュースが面白いほど分かる本』中経出版 2002年。	
参考図書	授業中適宜紹介していく。	
関連科目	現代社会, 政治経済。	
評価方法	定期試験によって評価する。	